

# SecPT

セキュアパーティション作成プログラム

プログラム説明書 v1.02

*PC* カスタム

## 仕 様

当プログラムは、UEFIモード配下にて直接動作するプログラムです  
OS（Mac、Linux、BSD、Windows、Dos等）配下では動作しません

### 【 特徴 】

- ・HDDファームウェア内の固有機能を利用していることにより、OSに依存しません
- ・セキュアパーティションが保護（秘匿）モードに設定されている場合はOSの認識領域外に存在しており、OSはもちろんアプリ・ウィルス等からもアクセス不能で完全非表示となります。OS上での未割り当て領域としても認識（表示）されません
- ・セキュリティを高めるため、セキュアパーティション自体の暗号化に対応しています
- ・起動時のプログラムチェック機能（ウィルス感染・改造等による不正検知起動中止機能）

### 【 機能メニュー 】

- ・セキュアパーティションの新規作成
- ・セキュアパーティションのアクセス可能モード設定（通常操作可能状態）
- ・セキュアパーティションの保護モード設定（アクセス不能・非表示）
- ・セキュアパーティションの暗号化／平文変更設定
- ・セキュアパーティションの削除（領域解放）処理
- ・パスワード変更設定
- ・パスワード入力方式変更設定（自動／手動）
- ・デバイスコメント変更設定

### 【 動作環境 】

- ・PC機種：組立て式PC（デスクトップ機）
- ・CPU：64bit
- ・UEFI搭載機：Ver2.3.1以降 テキストモード（100桁 x 31行以上サポート）
- ・HDDコントローラチップ：Intel、ASMedia、JMicron
- ・パーティション化方式：MBR、GPT
- ・OS：不要

### 【 対応メディア種類 】

- ・シリアル ATA-HDD
- ・パラレル ATA-HDD（48Bitモード）
- ・SSD

\*RAID構成、INTELラピッド等の複数デバイス構成はこれを解除し単体接続が必要

\*USB接続メディア非対応

## [ デバイス表示機能 ]

### ・デバイス固有情報

型名、製造番号、ファームウェアバージョン、全セクタ数、全容量、規格情報

## [ デモ版および製品版比較 ]

	< デモ版 >	< 製品版 >
・セキュアパーティションサイズ	: 最大 30MB	制限なし
・セキュアパーティション管理 HDD 最大数	: 1 基	最大 5 基
・起動時の広告表示	: 有り	無し

\*デモ版は利用環境機器における動作確認用として提供されています

## [ セットアップ手順 ]

\*USB デバイスより PC を起動する設定にします

1. 起動デバイス (USB-HDD/USB メモリ) をフォーマット (FAT32)
2. 展開後のフォルダ ("EFI") を起動デバイスのドライブ直下にコピー
3. UEFI 設定画面での各種設定 (参考)

- ・ Secure Boot : Disable (無効)
- ・ Fast Boot : Disable (無効)
- ・ CSM : Enable (有効)

## [ 使用手順 ]

1. PC の起動デバイスを UEFI モードによる USB-HDD 又は USB メモリに設定し PC を起動  
PC 電源 ON → 起動メニュー表示(PF キー連打) → UEFIxxx(xxx:上記起動デバイス名)選択
2. スタートアップパラメータ入力  
プロンプト "Startup Parameter >" 表示後、未入力にて Enter キー押下  
\*セキュアパーティション作成可能デバイス検出時、接続ポート番号、デバイス情報の一覧が表示されます
3. 複数デバイスが表示される場合は、操作対象デバイスポート番号を入力する  
\*指定デバイスが既にセキュアパーティション以外の保護領域が作成されている場合、確認表示されます。  
既存の保護領域を削除・解放する場合は、"y" 入力後 SecPT を再起動して下さい
4. 機能メニューより以下処理を選択（選択可能項目のみ表示されます）
  - 4-1. セキュアパーティション新規作成
    - ・セキュアパーティションは必ず HDD 最後部に作成され、複数パーティションがある場合、先頭、中間位置には作成できません
    - ・セキュアパーティションは HDD に 1 パーティションのみ作成可能
  - 4-1-1. パスワード設定
    - ・文字数 : 4 ～ 8
    - ・文字種 : スペース以外の印刷可能文字（すべて半角）
    - ・設定不可指定 : 3 連続以上の同じ文字、3 文字以上連続
    - 例    □ 1 2 3 □ 、 □ A B C D □ → X    （3 文字以上連続）
    - A A A □ 、 □ 5 5 5 5 □ → X    （3 連続以上の同一文字）
    - 1)入力時におけるパスワード文字表示 "y" / 非表示 "n" 設定
    - 2)パスワード入力
    - 3)パスワード再入力（確認用）
  - 4-1-2. パスワード入力方式設定
    - ・自動 "y" : パスワードが USB デバイスに格納され USB デバイス自体がキーとなり自動入力される（都度パスワード入力不要）
    - ・手動 "n" : 毎回キーボードよりパスワード入力必須
  - 4-1-3. セキュアパーティション容量設定
    - 例    5 0 0 m    （容量単位付与 : m、g、t 。 \*MiB、GiB、TiB）
    - \*余り大きなサイズ確保は、お勧めしません

#### 4-1-4. セキュアパーティション暗号化／平文設定

- ・暗号化 "y"：保護モード設定時には自動でセキュアパーティション自体を暗号化し、アクセス可能モード設定時には復号します
- ・平文 "n"：暗号化対応なし

#### 4-1-5. デバイスの認識性を高めるためのコメント設定（任意）

- ・0－25文字以内

#### 4-1-6. 上記指定入力完了後、セキュアパーティション領域のセクタチェック処理が実行されます（不良セクタが検出された場合は、HDD 交換を推奨します）

#### 4-2. 保護モード設定

- ・セキュアパーティション自体を OS からアクセス不能・非表示状態に設定する
- ・暗号化設定されている場合は、パーティション内セクタを暗号化します（時間が掛かる場合があります）

#### 4-3. アクセス可能モード設定

- ・セキュアパーティション自体を OS からアクセス可能・表示状態に設定する
- ・暗号化設定されている場合は、パーティション内セクタを復号します（時間が掛かる場合があります）

#### 4-4. セキュアパーティション暗号化／平文変更設定

- ・暗号化：セキュアパーティションを暗号化対応に変更する
- ・平文化：セキュアパーティションを非暗号化に変更する（時間が掛かる場合があります）

#### 4-5. セキュアパーティション削除（領域解放）処理

セキュアパーティション全領域を上書き(0x00 値)にて初期化し領域を解放（未割当領域）します

#### 4-6. パスワード変更処理

現パスワードより新パスワードへ変更します

#### 4-7. パスワード入力方式変更処理

自動（USB デバイス入力） → 手動（キーボード入力）、又は  
手動 → 自動へ変更します

#### 4-8. デバイスコメント変更処理

デバイスの認識性を高めるためにデバイス一覧で表示されるコメントを変更する  
0－25文字以内

## [ セキュアパーティション新規作成例 手順 (Windows10) ]

\*パーティション操作ツールが必要となります

Windows 搭載のディスク管理でも可能ですが、リアルにパーティションサイズが正確に表示されない場合がありますので、サードパーティ製のツールを推奨します

1. 図1のように既存パーティションがある場合、図2のように最後部パーティションの最後尾に空きエリア（未割当て領域）を確保します  
(希望するセキュアパーティションサイズより少し多めに。ここでは100MB)



図1



図2

2. OSを終了し、SecPTを起動します。セキュアパーティションを新規作成し、終了します

- ・メニュー処理 : "1. Create new"
- ・パスワード文字 : 任意
- ・パスワード入力方式 : 自動
- ・パーティションサイズ : 30MB (デモ版は最大30MB)
- ・パーティション暗号化 : N (無し)
- ・デバイスコメント : (未設定)

### 3. OS を起動し、空きエリアのサイズを確認します

図3のようにSecPTで確保したサイズ分の減少を確認。減少していない場合、SecPTでの作成が成功していないか、パーティション操作ツールがリアルに正確なサイズ表示できない仕様です \*Windows のディスク管理では、ここで正確な表示が不能場合があります



図3

### 4. 図4のように、最後部パーティションに空きエリア分を拡張し、空きエリアを無くし、OSを終了します

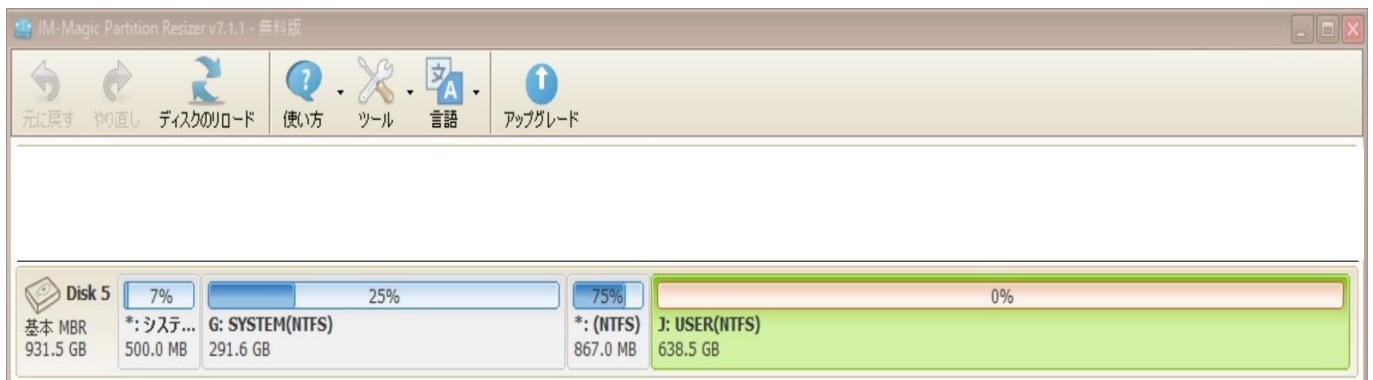


図4

### 5. SecPT を起動し、アクセス可能モードに設定し、終了します

"1. Accessible mode setting" を選択

6. OSを起動します。SecPTで作成したセキュアパーティションサイズ分の空きエリアが現れます（現れた未割り当て領域がセキュアパーティション領域となる）



図 5

7. 空きエリアにパーティションを作成（フォーマット・ドライブ名付与）し、セキュアパーティションを完成させます



図 6

8. 作成した（図 6）セキュアパーティション機能を確認する
- 1) セキュアパーティション内にサンプルファイル等を保存し、OSを終了します
  - 2) SecPTを起動し、保護モード ("1. Protection mode setting") に設定し終了します
  - 3) OSを起動し、エクスプローラ、ディスク管理等にてセキュアパーティションが存在していないことを確認します。OSを終了します
  - 4) 次に、SecPTを起動し、アクセス可能モード ("1. Accessible mode setting") に設定し終了します
  - 5) OSを起動します。セキュアパーティションが現れ、セキュアパーティション内データが正常に表示・アクセス出来ることを確認する

\*以降は、SecPTで必要に応じて保護モードと通常モードを切り替えての利用となります



**\*PC カスタムにて開発されたプログラムを 無断で掲載・販売・ダウンロード提供しているサイトがあります。**

**開発されているプログラム等の掲載（無料版ダウンロード含む）は本サイトおよびベクター様サイトのみです。被害を受けぬ様、十分にご注意ください。**

#### 重要注意

- ・ USB メモリ 損傷／紛失、パスワード 失念、メディアの劣化・障害発生等によるセキュアパーティション 復旧は、当方にてても不可能です。自己責任での厳重管理をお願いいたします。
- ・ セキュアパーティション作成後は、パーティション操作（リサイズ・削除・移動等）は行わないで下さい
- ・ デモ版より製品版への切替え、サイズ変更、パーティション操作される場合はセキュアパーティション内データをバックアップし SecPT にてセキュアパーティションを削除してから再度、SecPT にて新規作成して下さい
- ・ 暗号化設定は万一、第三者による不正アクセスされた場合でもセキュアパーティション内データの参照を不能とする対策機能です
- ・ 当プログラム利用によって得られる結果についてはどのような場合でも利用者の責任とさせていただきます。また当社は一切の保障責任および瑕疵責任を負いません。

\*プロンプト "Shutdown / Reboot (s/r)?:"によるリブート後、操作結果が反映されていない場合は、PC をシャットダウン（電源 OFF）後、再起動して下さい。

古い PC（マザーボード）の場合、” コールドスタート” 機能が未サポートの場合があります

---

## PC カスタム

URL <http://pc-custom.main.jp/>

E-mail(PC) [info@pc-custom.main.jp](mailto:info@pc-custom.main.jp)

最新版／製品版(有償)のお問い合わせ等は上記 HP・メールにて